

# 大垣市教育振興基本計画策定委員会 第2回会議録

- 1 と き 令和6年10月17日（水）13:30～15:20
- 2 ところ 大垣市役所6階 教育委員会室
- 3 出席者 長谷川 哲也委員長、田村 弘司副委員長、井上 瞳委員、  
川合 麻美委員、山崎 幸輝委員（欠席：佐野 篤委員）
- 4 事務局 細江教育長、平松事務局長、鈴木庶務課長、小倉学校教育課長、  
伊藤教育総合研究所長、林社会教育スポーツ課長、  
鈴木文化振興課長、橋本図書館長、吉安庶務課主幹、中野庶務課主幹
- 5 傍聴者 2人

## 6 議 題

### (1) 指標と目標について

- ・学校教育分野
- ・社会教育分野
- ・文化振興分野
- ・図書館活用分野
- ・スポーツ推進分野

### (2) その他

## 7 会議録

### (1) 指標と目標について

学校教育分野について

資料No.1に基づき、小倉学校教育課長が説明。

以下、質疑応答の概要。

| 発言者 | 発言概要                                                          |
|-----|---------------------------------------------------------------|
| 委員  | すべての項目に対して全国平均を上回るような設定にされていますが、指標や目標については、教育現場で働いてらっしゃる教職員の意 |

| 発言者       | 発言概要                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
|-----------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|           | <p>見が反映されているのでしょうか。</p> <p>例えば、3ページの「子どもの話（悩み）や相談に耳を傾け、話を聞いている教職員の割合」の目標設定は100%です。教職員の皆さんは目標に向かわれると思いますが、できない理由もあると思います。</p> <p>自分の業務が精一杯でなかなか話を聞く時間がないけれども、例えば、相談員等を配置すれば割合は上がるかもしれないとか、意見があると思います。ただ数字だけを上げましょうでは、なかなかできないのではないかと思います。</p>                                                    |
| 小倉 学校教育課長 | <p>毎年、教職員や児童生徒、保護者アンケートを実施しており、その結果をふまえながら分析し、次年度はどのように学校を運営しよう、教職員に接していこうということは共通理解を図りながら進めております。</p> <p>最終的に100%に目標設定をしたことにつきましては、教育委員会としては、100%になるように進めていただきたいという願いも入っております。実際に学校の先生方がどのようなことに困っているか、多忙感を感じているのかということも直接聞き取りをしたり、学校訪問等で校長や教頭からの話をお聞きしながら、改善ができるように少しずつ環境を整えているところでございます。</p> |
| 委員        | <p>例えば、「運動やスポーツをすることが好きな子どもの割合」については、割合を上げるために、各学校で具体的に案を練られて実践していくということですね。</p>                                                                                                                                                                                                                |
| 小倉 学校教育課長 | <p>コロナ禍でなかなか外遊びや運動をする機会が少なかった時期が数年続き、小学校や中学校でスポーツをすることが好きという子どもの数値が若干低かったということもありますが、今スポーツができる環境を整えつつあります。例えば俊敏性を高める遊びや、持久力を身に付けるような縄跳び大会など、各学校で子どもの実態に合わせて楽しい、やってみたいというような活動に取り組んでいただいております。</p>                                                                                               |
| 委員        | <p>「仲間との関係に満足していない子どもの割合」について、元々は「どちらかというと思わない」、「そう思わない」2つを足した6.6%を基準とされていましたが、今回は「そう思わない」と回答した1.6%となっています。一番困り感のある子ども達に注目をしたということで、これはすごく私は大事なことだと思いますが、表記について「基準値を下回る」と書かれた理由を教えてください。</p> <p>何故かと言いますと、基準値と同じ目標値を設定しているところが</p>                                                              |

| 発言者       | 発言概要                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
|-----------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|           | 他の分野でいくつもありますが、全部数値をふってあります。「基準値を下回る」とされた意図を私なりに解釈しますと、他は全部上がっていく数字なんですね。ただここだけ下がる数字ですので、このように書かれたのかと推測いたしました。これを1.6と書くのか、基準値を下回ると書くのか、お考えを教えてくださいたいと思います。                                                                                                                                                                                   |
| 小倉 学校教育課長 | <p>6.6から1.6に修正させていただいたことにつきましては、やはり一番満足していない子ども達にきちんと目を向けましょうという思いもあり、1.6と修正させていただきました。</p> <p>もちろん、6.6、全体の底上げは当然図っていきたいと考えております。この1.6を1人でも救っていくと言いますか下げていくという意味で基準値を下回るという表記にさせていただきました。</p>                                                                                                                                                |
| 委員        | そうすると、ここは1.6という数字をふるのではなくて、この文字表現でいくということでしょうか。                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
| 小倉 学校教育課長 | はい。そう考えました。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| 委員        | 表記についてですが、「2 指標の設定理由」に、(1)(2)と小見出しがありますが、他の分野を見ますと、この小見出しはありませんので、特に書く必要はないかと思います。                                                                                                                                                                                                                                                           |
| 小倉 学校教育課長 | 削らせていただきます。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| 委員        | <p>1, 2ページでICTの活用について書かれていますが、ICTの活用が始まり数年経ち、近年ICTの活用が教育現場に本当に有効かという検証が徐々に出てきていると思います。ニュースや雑誌の記事で、必ずしも教育に有効ではないという結果が出始めているのを目にしました。</p> <p>前に海外の子ども達とインターネットを繋いで対話をしているとお伺いしましたが、そういうことに活用するのはとても有効かと思いますが、この5年間にまた、このICTに対する教育の有効性みたいなものも変わってくる場合があると思います。</p> <p>今回の基準はこれで良いと思いますが、その時々でどのように活用していくかということは、現場で変えていく必要があるのではないかと感じました。</p> |
| 委員        | これは実は子どもが判断する割合ですので、結構挑戦的な目標です。先生方ではなく、子どもが主体的にICTの活用方法を判断するとい                                                                                                                                                                                                                                                                               |

| 発言者 | 発言概要                                                                                                                                           |
|-----|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|     | うことですので、かなり高度で、それが本当に必要かどうかということを子ども自身が判断することになっています。これが高まっていくことが、ICTが本当に必要なのか、それとも別の学びの方法があるのかということを子ども達が理解できる判断できるという指標になっています。ご指摘の通りかと思います。 |

#### 社会教育分野について

資料No.1に基づき、林社会教育スポーツ課長が説明。

以下、質疑応答の概要。

| 発言者              | 発言概要                                                                                                 |
|------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 委員               | 「おしゃべりサロン」は、どんな場所に設置されていて、どのように使われているのか教えてください。                                                      |
| 林 社会教育<br>スポーツ課長 | スイトピアセンター学習館の中に設置をしており、就学児の保護者を対象に、子育ての悩み、相談や学習支援を行っており、スタッフとして、家庭教育支援スタッフ養成講座を受講された方に関わっていただいております。 |
| 委員               | 子育て中ということですので、子どもを連れて一緒にということも可能ですか。                                                                 |
| 林 社会教育<br>スポーツ課長 | はい。子ども連れでいらっしゃる方もみえます。<br>悩みや相談だけではなく、保護者同士の交流という部分もあります。                                            |
| 委員               | 「おしゃべりサロン」のスタッフは何人いらっしゃいますか。                                                                         |
| 林 社会教育<br>スポーツ課長 | 令和6年度現在で23人です。毎年養成講座を実施しており、登録していただいております。                                                           |
| 委員               | 満足度の指標が2つありますが、これはいずれも数値が4件法の満足度のうち最も高位の割合をとっているということよろしいですか。<br>かなり高めの数値ですので、元々満足度が高いということでしょうか。    |
| 林 社会教育<br>スポーツ課長 | 子ども会リーダースクール満足度につきましては、自分で参加したい、興味があるという子が参加しますので、楽しかったという結果が多くなります。                                 |
| 委員               | そうすると、4件法のうち上位2つを足したものと、100%に近い数値になってしまう訳ですね。                                                        |

| 発言者              | 発言概要                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 林 社会教育<br>スポーツ課長 | <p>「とても楽しい」「楽しい」「あまり楽しくない」「楽しくない」という4つの選択肢ですが、「とても楽しい」「楽しい」を合わせると約90%という数値になります。</p>                                                                                                                                                                                                              |
| 委員               | <p>一番高位をとるということでよろしいですね。</p> <p>13ページの表記の問題ですが、指標2に「※」の説明がありますが、これは14ページの算出根拠にほぼ同じ説明が書いてありますので、「※」の説明のはいらないかという印象が個人的にはあります。</p> <p>また、「※」の説明を外した時に、14ページの(2)の第1段落と第2段落を入れ替えた方が良いと思います。まず基準値の説明があり、そのうえで第2段落で5年間で10%増加させる目標値とされた方が良いと思います。</p> <p>そうすると「※」の説明はやはりいらないかと思いますので、ご検討いただきたいと思います。</p> |
| 細江 教育長           | <p>満足度につきましては、子どもの満足度を表に出してきています。例えば、15ページの指標の設定理由に少し書いてありますが、子ども向けの事業を実施する時に、子ども自身の意見をたくさん聞こう、要するに大人側からこういうのが良いでしょうと作るのではなく、子ども自身がどんなことをしたいのかということを十分に捉えながらというスタンスをきちんとしたいという意味で、この指標を立てております。そこが前期計画から見直しをした部分です。</p>                                                                           |
| 委員               | <p>前期の計画は、市の方で何かをするという指標が多かったですので、実際その満足度や利用者アンケートをもう少し活用した指標にできないのかというのは評価委員会の中でもかなり議論をされていきました。後期計画の5年間の中に満足度を取り入れていただいたということですね。</p>                                                                                                                                                           |
| 細江 教育長           | <p>はい。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| 委員               | <p>非常に重要だと思います。質的なところ見ていくのは量的なものとともに重要ですので、この方針で良いと思います。</p>                                                                                                                                                                                                                                      |

文化振興分野について

資料No.1に基づき、鈴木文化振興課長が説明。

以下、質疑応答の概要。

| 発言者       | 発言概要                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
|-----------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 委員        | <p>文化振興分野だけの問題ではないと思いますが、例えば17ページの目標値の算出根拠で、「少子化などにより交流人数の減少があると考えられるが、目標は微増の数字」としています。文化施設だけではなく、スポーツ施設も、子どもの数が減っているのは明らかです。率直な疑問ですが、現状維持でもかなりチャレンジのような気もしますが、全体的に人数を増やしていくというのは難しいのではないのかと感じました。</p>                                                                                          |
| 鈴木 文化振興課長 | <p>人口の減少につきましては、0.98%という予測値がございますので、これで補正をかけております。ご指摘いただきました件ですが、文化振興分野につきましては、コロナの影響がありましたが、徐々に回復してきているという状況が大きな流れとしてはございます。</p> <p>コロナ後の戻ってくる分、それからこれからの人口減少等の減の部分、基本的な動態の部分と、さらに我々の努力の部分を入れて、現状維持もしくはプラスアルファの微増というような設定をさせていただきました。</p>                                                      |
| 委員        | <p>関連するところで、17ページの交流事業参加者数について、実は微増はさせるが、その後は変えないということになっています。一方で、20ページの「文化芸術・歴史文化活動施設入場者数」は、年間ずっと上げていくということですが、この指標の方針の違いは何かあるのでしょうか。</p>                                                                                                                                                      |
| 鈴木 文化振興課長 | <p>確かにおっしゃるように、設定の仕方が微妙に違うところがありますが、施設の入場者数というのはもう少し増加が見込めるのではないかと考えております。</p> <p>ただ、今例示いただいた交流参加者数、団体数につきましては、これは残念ながらコロナ関係なしに後継者不足でいろいろな団体が弱体化している現状でございます。また活動維持しているけれど規模が小さくなっている等がありますので、この部分につきましては、やはりなかなか増加することは見込めない、ただ施設入場者というのは我々の努力も含めて増やしていける部分もあるだろうということでこのような設定をさせていただきました。</p> |

| 発言者       | 発言概要                                                                                                                                                                                                                       |
|-----------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 委員        | よくわかりました。非常に重要な説明がありましたが、この指標についてはそのような方針にされるというのはすごく大事だと思います。                                                                                                                                                             |
| 委員        | 前期計画の時にいろいろご指摘があったと思いますが、特に文化は数だけでは測れないところがありますので、必ず何かの満足度が指標の1つに入っていますので、非常にバランスの取れた指標になっていると思いました。                                                                                                                       |
| 委員        | 学校教育分野や社会教育分野ですと、満足度の要はスケールがどこを焦点にしているのかというのが分かりやすかったのですが、今回この数値が何件法のどこのところの数値を取っているのかという説明がありませんので、わかる範囲で教えていただけたらと思います。                                                                                                  |
| 鈴木 文化振興課長 | <p>大変申し訳ございません。この部分につきましては、アンケートの取り方が必ずしも統一されていないことがございまして、4段階評価と5段階評価がありました。5段階評価につきましては上位2つ、4段階評価につきましては上位2つを挙げております。</p> <p>あと、基本目標(1)の満足度につきましては、非常に満足度が高いです。事業の規模にもよりますが、この満足度を上げることはできないと考えまして現状維持とさせていただいております。</p> |
| 委員        | それぞれの分野で考え方があると思います。例えばこのように高くなってしまった時は先ほど社会教育分野のように一番上位を取るというやり方も多分あると思います。これは各分野のお考えがありますので、指標を設定する時に一番上位だけを取るともう少し目標設定しやすい可能性もありますので、今後ご検討いただければと思います。                                                                  |

#### 図書館活用分野について

資料No.1に基づき、橋本図書館長が説明。

以下、質疑応答の概要。

| 発言者 | 発言概要                                                                                                        |
|-----|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 委員  | 22、23ページの講座・講演会などの満足度ですが、今、文学講座をされているので文学講座から取ったということで、今後も文学講座の満足度をとる訳ではなくて、他の講座の満足度の平均みたいなものを出すというイメージですか。 |

| 発言者     | 発言概要                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
|---------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 橋本 図書館長 | 実は、満足度の数値が文学講座でしかとっていませんので、これを参考にさせていただきました。今後は各講座で満足度調査をとってその平均値を出していきます。                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| 委員      | この満足度は4件法の上位2つですか。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| 橋本 図書館長 | 5段階評価の上位2つです。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| 委員      | 児童書の定義はありますか。どんなものが児童書なのか教えてください。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| 橋本 図書館長 | 概ね14歳以下の方を対象とした図書になります。絵本や小学生向けの分かりやすい物語などで、一般の大人向けではなく子ども向けに出版されている図書になります。                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| 委員      | 例えば14歳の子が大人の読むような専門書を借りてもそれは冊数に入らないということですね。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| 橋本 図書館長 | はい。中学生ぐらいになると一般書を読まれる方も当然いらっしゃいます。ただ統計上、こうした出し方しかできないため、児童書とさせていただきます。                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| 委員      | 例えば14歳以下の子が、どれだけ本を借りたかというデータはないということですね。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| 橋本 図書館長 | 図書館は利用カードで貸し出しを行っております。小さなお子さんは親の利用カードで借りられることが多いです。そのため、実際に借りた方と読まれた方を結びつけるのが非常に難しいというのが現状です。                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| 委員      | <p>ご指摘いただいた点について、私も気になったところがあります。確か以前の評価委員会で、今のご意見と全く同じことをおっしゃっていたと思います。とはいえ、割る数が14歳以下の人口で割っています。これはどう整合性をつけるかというところがありまして、大人が借りているかもしれないのに、なんで14歳以下の人口で割るのかというところで整合がつかなくなってしまうので、なかなか難しいところかと思います。</p> <p>つまり誰が何を借りているかというところが完全に一致するようなデータがあればいいのですが、多分どちらかがやっぱり欠けているということになっていきますので、やむを得ない指標の設定の仕方かと思います。14歳以下の子が大人の本を借りていることもあれば、大人が児童書を借りるということもある、その辺のバランスが非常にこの指</p> |

| 発言者     | 発言概要                                                                                                                                                                |
|---------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|         | <p>標では作りづらいところがあるかということだと思います。</p> <p>おそらくこの指標は今後も重要な指標になってくると思います。子ども達がいかに本を読むかということですので、やはりこれは時間をかけて正確に評価する検討をしていただいても良いかもしれません。少し時間をかけてご検討いただく指標になるかと思います。</p>   |
| 委員      | <p>結局、子どもの時に読書に親しんで、ずっと本を読む習慣をつけるという意味でやっていращやるので良くわかりますが、指摘の点は難しいと思います。</p>                                                                                       |
| 委員      | <p>親が借りようが誰が借りようが14歳以下のとりあえず本だということのジャンルで見るなら、このやり方が今は一番最良の指標の出しかと思いましたが。14歳以下のカードで何を借りたか見るよりは、やはり児童書の貸出し数を14歳以下の人口でというやり方は最良ではないかと私は思いました。すごく考えられたのではないかと思います。</p> |
| 橋本 図書館長 | <p>0、1歳児は親が読み聞かせをしますので、子どものカードを作っている人は少ないです。親のカードで借りても、子どものために読まれる方が多いと思いますので、今の方法しかやむを得ないかと思います。</p>                                                               |

#### スポーツ推進分野について

資料No.1に基づき、林社会教育スポーツ課長が説明。

以下、質疑応答の概要。

| 発言者              | 発言概要                                                                                                                                                                                                                                 |
|------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 委員               | <p>29ページの「日本スポーツ協会公認指導者新資格登録者数累計値」の算出根拠の説明で、毎年新規取得者を40人と見込んでいращやって、そのうち4年ごとの更新時には半数が資格を更新すると仮定するので、20人ずつということですよ。そうしますと、元いた人達は更新を全てするという前提になる訳です。例えば、この213人は半数を更新すると考えなくても良いのですか。新規に登録した人だけは半数が更新をして、今いる213人は全員が登録し続けるという前提ですよ。</p> |
| 林 社会教育<br>スポーツ課長 | <p>指導者としては更新し続けるということになります。</p>                                                                                                                                                                                                      |
| 委員               | <p>そうすると新規の40人はなんで半分しか更新しないという設定になるのか、ちょっと数字の齟齬が出て来ってしまうのではないかと思います。登録した人は基本的に更新し続けるのであれば40人ずつ足してい</p>                                                                                                                               |

| 発言者              | 発言概要                                                                                                                                      |
|------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                  | くことになりますし、登録した人が半数しか更新しないのであれば、元の213人もどこかのタイミングで半分に減らさなくてはいけない、そういう処理が必要となってきます。平均40人なので、今後もその20人ずつ増加させるという説明で良いと思います。説明の文章の表現の問題かと思います。  |
| 林 社会教育<br>スポーツ課長 | 今登録している人は維持しながらという表現にさせていただきます。                                                                                                           |
| 委員               | 今登録している人たちは全て更新を維持しながら、これまでの実績から考えて年間20人ずつ増加を見込むというようなくらいで良いのではないのでしょうか。<br>評価委員会でも、委員さんが基本的には更新するというようなことをおっしゃっていましたよね。                  |
| 委員               | 本当は取得者の半数は更新しないと仮定してはいけませんね。その仮定を削った方が良いですね。                                                                                              |
| 委員               | 引退される方はいないのですか。                                                                                                                           |
| 委員               | 年齢的にいらっしゃるかもしれないです。                                                                                                                       |
| 林 社会教育<br>スポーツ課長 | それでは、今後は20人ずつ増加とさせていただきます。                                                                                                                |
| 委員               | これぐらいの実績があるけれど、少なくとも20人ずつは増加が見込まれていることからという感じで良いと思います。                                                                                    |
| 委員               | 全国大会出場者数についてですが、全国大会を減らすというような情報もありましたが、それは見込まれているのですか。全国大会が増えることはなく、減らす方向ですがそのあたりも加味されていますか。今の大会がずっとあればこれで良いですが、種目によっては減らすという情報もありましたよね。 |
| 細江 教育長           | 中体連が主催するものは減っていきますが、その代わりいろんな他団体の全国大会は増えてきています。                                                                                           |
| 委員               | 種目も増えていきますよね。そういうことを加味すると全体としては変わらないか、増えていくということですね。                                                                                      |
| 委員               | 部活に関しては減ってきていますね。                                                                                                                         |
| 細江 教育長           | 学校にある部活ばかりではなくて、いろんなスポーツをするという流れになってきています。それこそ、柔道で表敬に来てくださる方もいれば、ブラジリアン柔道でという方もいらっしゃいます。                                                  |
| 委員               | 多分、中体連や高体連に入らない種目などたくさん出てきますから                                                                                                            |

| 発言者              | 発言概要                                                                                                                                                                                                                                                     |
|------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                  | ね。これで良いかもしれません。                                                                                                                                                                                                                                          |
| 委員               | これは必ずしも子どもだけではなく、社会人の方も含んでいます。                                                                                                                                                                                                                           |
| 委員               | 27ページの「小中学生スポーツ活動実施率」ですが、これに部活は入っていますか。                                                                                                                                                                                                                  |
| 林 社会教育<br>スポーツ課長 | これは、小中学生に毎年アンケートをとっている「体育の授業以外で週1回スポーツをしていますか」という設問ですので、部活動も含んでいます。                                                                                                                                                                                      |
| 委員               | そうすると、部活はもう必須ではなくなってきたので、減っていくような気がしましたが。                                                                                                                                                                                                                |
| 林 社会教育<br>スポーツ課長 | 部活以外にもクラブや、スイミングスクールなどのスポーツ教室もありますので、目標値は上げていくことにいたしました。                                                                                                                                                                                                 |
| 細江 教育長           | 自分で走ったりしている子どもや、文化系の部活でも、例えば吹奏楽部や合唱部ですと、基礎体力作りで走ったりもしています。                                                                                                                                                                                               |
| 委員               | <p>方針として部活動を減らしていくとか、あるいは学校の先生の負担を減らしていくという方向がありますが、それは必ずしも子どもがスポーツをやらない方向に動いている訳ではないです。</p> <p>学校部活動から切り離して、地域のスポーツ活動等を積極的にやっていったり、あるいは自分に合った何かスポーツをやったり、自分で走ったりだとか含めて、多様なスポーツを子ども達が取捨選択するような形になっていけば、これは上がっていきます。部活動が縮減していく中でも、個人的にはぜひ上げて欲しいと思います。</p> |

## (2) その他

| 発言者 | 発言概要                                                                                                                                                                                                         |
|-----|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 委員  | <p>参加者数や来館者数を増やすという数字の出し方で目標設定が若干違っています。例えば30ページの「大垣市民総合体育大会参加者数」は現状維持15,000人で設定されていますが、人口1,000人あたりの数字にした方が良いのかなと感じています。</p> <p>それぞれの分野でのお考えがあってやっていらっしゃると思いますが、統一がされてなく違いがありますので、その点で目標に達成出来れば良いと思いました。</p> |
| 委員  | 今回、先ほど教育長がおっしゃたように後期計画では量的なものだけではなくて、質的な指標、満足度等を入れていただきました。                                                                                                                                                  |

| 発言者 | 発言概要                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|-----|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|     | <p>これはずっと評価委員会でも量だけではなくて、参加者や利用者、子ども達がどれくらい満足しているかということも重要じゃないかという議論を、後期計画には反映していただいていると思います。</p> <p>一方でやはり大垣市の評価の良さは、量で測るところもあるんですよ。きちんと客観的数値と利用者の主観数値を組み合わせると非常に後期計画はより良いものになっているのではないかと思います。</p> <p>多少、分野間で指標のずれが生じている部分もありますが、それは各分野の方針等もありますが、次に向けては何かその共通理解みたいなものがあっても良いかと思います。例えば満足度をどこに設定するのかとか、あるいは人口で割るのか割らないのか、何かその方針があると、より良いものが次回以降できるかと思いますので、そこはまた次の基本計画策定の際に、共通理解していただけると良いと思います。</p> |
| 委員  | <p>やはり4段階と5段階で出方も違いますので、それが統一されていないとか、人数を1,000人あたりにするのか、一緒の数字にしても下がってくるはずのところを頑張っているところもあります。そういう点の統一についても検討されると良いかと思います。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| 委員  | <p>今後そのあたりも議論していただければと思います。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |

閉会